

Pick up イベント

哲学カフェ「伝わるとはどういうことか」

日時：5月16日（日）16:00～18:00

場所：クロスロードカフェ（伊丹）

進行：池田光曜

今回の哲学カフェのテーマは当日、参加者で話し合っただけで決まることになっていた。そこで候補として挙げられたのは次の三つ、「伝わるとはどういうことか」と「なぜ伝えたいと思うのか」と、この二つを組み合わせた「伝わるとはどういうことか—なぜ伝えたいと思うか—」だった。最終的に一番目のものに決定したが、テーマを決めるのは予想以上に難しかった。テーマ決めと並行し、どんどん議論の内容に入っていってしまったために、どのようなテーマにするのが適切なのか、判断が難しくなっていたように感じた。

テーマを決定した後の議論では、テーマの提案者から出された「次の世代の人に自分たちは何が伝えられるのか」という論点から始まり、様々な意見が出された。まず、大人が子どもに何かを伝える場面について考え、伝える人と伝えられる人はそれぞれに『世界』を持っていて、この『世界』の違いによってあることが伝わったり伝わらなかったりする、という意見が出され、議論の前半はこの『世界』という言葉を中心に進んでいった。また、後半では儀礼的に何かを言うことと、本当にそう思って何かを言うこと（例えば儀礼的に「美味しかった」と言うことと、本当にそう思って「美味しかった」と言うこと）では伝わるものがどう違うのかについて意見が交わされた。

哲学カフェの進行役を務めたのは今回が初めてだった。その不安と緊張の中、興味深いと感じたのは、意見を自分の経験とともに

に話すという、参加者の意見の述べ方だった。意見を聞く際には、発言者が話す経験が議論のテーマやその人の意見にどのように結びついているのかを考えることがとても重要になると感じた。

（報告・池田光曜／大阪大学学部生）



クロスロードカフェ：阪急伊丹駅より徒歩5分・JR伊丹駅より徒歩5分。三軒寺広場のすてきな喫茶店。手作りのおいしいケーキとドリンク付きで哲学カフェが楽しめる。

兵庫県伊丹市中央 3-2-4 TEL 072-777-1369

【伊丹での哲学カフェ】

【伊丹まちづくり会議】の方に声をかけていただき、共催で、二ヶ月に一回、伊丹のクロスロードカフェにて開催している。話しやすい雰囲気のカフェで、進行役を試してみたいけれど、まだ経験がない、という者にとって、初挑戦の場ともなっている。

メンバーコラム

「夢見る約束」

桑原英之

絵を見るには時間がかかる。ミルトークで学んだ事だ。見ているようで見ていない。直観は予感を示唆しこそすれ、正確な知覚を与えてはくれない。前者の速力に後者は立ち遅れて現れる。ベルクソンはいう。大事なことは、いかにこの眼で知覚するにいたるかではない、と。反対に、眼があるにも関わらずなぜ見ることができかにある、と。この眼の持つ精緻な仕組みは、見ることを極めるべく生まれたというよりも、何を見せないかを基軸にすりえられた調度品なのかもしれない。

絵を見るには時間がかかる。意味や主題を理解するためにではなく、絵を見るために時間がかかる。その見る経験を言葉にし、言葉にされた「見る」を聴く。私は、見ることを補うための言葉をこえて、絵を見ることを見ることそのものを取り戻す出来事にまでつきぬけていく日を、ミルトークに夢見ている。

考えを言葉にするのも時間がかかる。哲学カフェで学んだ事だ。直観は思いつきを与えても表現する言葉を授けてくれない。言語抜きに思惟することは難しい。しかし十全な思考と表現のために言語が最適化されてるわけでもない。先の哲学者はいう。つまりそもそも言語は哲学仕様ではないのだ、と。「哲学する」ということは、したがって、思考作業の習慣的方向を逆にするのである、と。言に従い、類比を進めて、こう問えるだろうか。だとすれば、考えるべきは、言葉でいかに思考するかではなく、言葉があるにもかかわらず思考可能なのはなぜかということではないか、と。

言語は思考の全きを得る向きになく、何を思考させず語らせないかを軸に、ぐるぐる回る。私は、もぞもぞした言葉の奥に黙された思考との偶然の出会いを、哲学カフェに夢見ている。

プロフィール

カフェフィロ事務局。ホームページを担当。その昔SMCでミルトークをはじめた。近年はテッドク！を定期開催。今年の晩夏には演劇をミックスした新企画を計画中。

五月十二日、中之島哲学コレージュで開かれた哲学カフェで進行役を務めた。今回のテーマは「無償の贈与は成り立つか？」。中之島哲学コレージュの四月から五月のテーマである「贈与」をめぐるテーマの中から、多くの参加者に発言していただくことを願い、取り組みやすいシンプルなものを選んだ。

当日の哲学カフェには、平日の夜であったにも関わらず、五十名以上の方が来場された。実際の対話では、「成り立つ」という意見が多く、その理由として、贈与する側の気持ちの持ちよう、特に贈与の後に生じる満足感が多く挙げられた。例えば、「満足感はあるものの、生じるものであっても、外部から到来するものでない以上、それは見返りとはいえない」など。他にも、「無償の贈与」という言葉はそもそも矛盾している」という意見や、「成り立つかどうかは、贈与する側とされる側の関係性によって変わる」という意見が何度か出てきて、議論のポイントとなった。

さて、今回の哲学カフェでは多くの方の意見を伺うことができたが、その反面、進行するにあたってはかなり苦戦した。数十人もの方から次々に意見が出され、それらが時に重なり、またぶつかり合いながら、対話は込み入った経過を辿っていく。対話は直線的には進んでいかず、あと一步の進展がなかなか見られないのだ。そうした状況を打開するよう務めることは進行役の役目だが、私は今回その器用に動くことができなかった。だが、私と同時に参加者のみなさんも困難に直面しており、それを共に引き受けて、対話を前に進めようと努めてくれた。今となっては、そ

した対話を支えるプロセスを共有できたことは、対話におけるあと一步の進展に劣らず有意義だったと思う。

（報告：深田千晃）

【中之島哲学コレージュ】

中之島哲学コレージュ

四月十四日 哲学カフェ「人にあげられないものとは？」 森本誠一

四月二十三日 対話セミナー：問答法にチャレンジする（2） 中川雅道

五月十二日 哲学カフェ「無償の贈与は成立するか？」 深田千晃

五月二十一日 セミナー「臓器移植法改正—何が変わるの？」 紀平知樹



京阪電鉄中之島線「なにわ橋駅」地下構内に設けられたアートエリアB1。中之島哲学コレージュでは、哲学カフェや書評カフェ、公開セミナーといったプログラムを提供している。

2010年4～5月の活動一覧

- 4月11日 哲学カフェ「桜と日本人」 さする庵 ひし形（高橋綾+尾崎日菜子）
- 4月14日 哲学カフェ「人にあげられないものとは？」 アートエリアB1 森本誠一
- 4月18日 シネマ哲学カフェ『ウィニングチケット～遥かなるブダペスト』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 4月18日 書評カフェ：村瀬学『「あなた」の哲学』 カフェP/S 三浦隆宏
- 4月23日 対話セミナー：問答法にチャレンジする（2） アートエリアB1 中川雅道
- 5月8日 哲学カフェ「幸福とは何か？」 カフェテラス古瀬戸 寺田俊郎
- 5月9日 シネマ哲学カフェ『アンドレイ・ルブリョフ』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 5月9日 哲学カフェ「じぶんってなに／だれ？」 せんだいメディアテーク 西村高宏
- 5月12日 哲学カフェ「無償の贈与は成立するか？」 アートエリアB1 深田千晃
- 5月15日 哲学カフェ「教育格差は悪か？」とよなか国際交流センター 高山佳子
- 5月16日 哲学カフェ「真面目とは？」 コーヒーショップJUN 深田千晃
- 5月16日 哲学カフェ「伝わるとはどういうことか？」 クロスロードカフェ 池田光曜
- 5月21日 セミナー「臓器移植法改正—何が変わるの？」 アートエリアB1 紀平知樹
- 5月24日 テツドク（哲読）！ 第7回：岡本太郎『沖縄文化論』 さする庵 樫本直樹
- 5月25日 哲学カフェ「なぜ結婚するのか？」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 5月30日 メディカルカフェ「痛みの表現と伝え方」 カフェP/S 森本誠一

賛助会員 募集中！

カフェフィロでは、カフェフィロの活動に賛同し協力してくださる賛助会員（年会費 3,000 円）を募集しています。会員の方には、『哲学喫茶』最新号と、『哲学喫茶 瓦版』（隔月発行）をお送りします。詳しく info@cafephilo.jp まで。

CAFÉ PHILO（カフェフィロ）

2005 年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足、哲学カフェ、哲学対話セミナー（子ども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。

〒537-0023 大阪市東成区玉津 3 丁目 8-6 ロイヤル丸文 II 406 号室 たまてばこ内

e-mail: info@cafephilo.jp <http://www.cafephilo.jp>

哲学喫茶瓦版 2010 年 6 月 30 日発行

発行人：高橋綾 編集・デザイン：井尻貴子

